

経営協議会学外委員等からの意見、指摘等に対する対応状況（検証）

平成27年 3月31日現在

（平成26年度）

回	年月日	意見交換テーマ、意見・指摘等の内容	対 応	検証状況
第7回 経営協 議会	H27. 1. 20	○意見交換テーマ 『佐賀大学改革プランについて』		
		佐賀には公立大学がないので、地域活性化に取り組みやすいのではないだろうか。とは言え、グローバルな視点で考えると大変なものもある。	佐賀大学卒業後、そのまま佐賀で就職するのではなく、一旦、県外や海外に出て、経験を積んでから佐賀に戻ってくるのもよいのではないかと思う。	
		ビジネスパーソンで、都会と佐賀の違いはモチベーションとスピードである。難しいかもしれないが、佐賀の雇用や学びの場を充実させて自信を付けさせて都会に出すほうがよいのではないかと思う。	福岡など都会に拠点を持つ企業と、佐賀にしか拠点が無い企業との違いがある。地元の中小企業では、大卒を採らないところと、来てほしいのに学生が来てくれないという雇用のニーズにミスマッチがある。	
回	年月日	意見交換テーマ、意見・指摘等の内容	対 応	検証状況
第3回 経営協 議会	H26. 10. 23	○意見交換テーマ 『第3期中期目標・中期計画作成の基本方針について』		
		・地域連携分野の課題で「佐賀県における産学官包括連携協定」の新規事業の企画力の低下、事業実施責任者が佐賀大学に偏っているとあるのは具体的にどのようなことか。	事業によっては、必ずしもパートナーとうまく組めないものがあり、事業実施責任者を佐賀大学の教員が務めているものが多いということである。	「認知症総合サポート事業」をリーディング事業とし、県総人口に占めるサポーター数の割合は、平成22年度全国22位から平成26年度には7位になった。また、サポーター養成だけでなく、福祉・介護業務に取り組んでいる。

		<p>少子高齢化社会は、将来構想において悩むところであり、佐賀県人が危機感を共有しなければならない。6者協定を全体的にどう高めていくかリーダーシップを県が握り、すそ野を広げて6者協定に落とすことで、行政が大学シーズと市場ニーズの関係を強める役割を担う。事業の絞り込みは、達成感を削ぐのではないかと感じる。</p>	<p>徐福フロンティアラボの機能性・健康食品開発、唐津コスメティックバレー構想などは、農学部を持つ強みになる。文系（文化・芸術・歴史）との連携を望み、産業化できるかという問題はあるが、観光にはなる。事業の選択と集中を行い、拠点を作ることが大事である。</p>	
		<p>よく「面倒見のいい大学」と言われるが、学生が公務員を目指すのならば別に専門学校に行く、学力不振で企業のペーパーテストの一定の点数がとれないなどということに関してどう思うか。</p>	<p>出口の問題は、就職率を分析し、課題が見えてきた。教員採用試験と公務員試験に落ちた浪人生が一番の問題と認識している。</p>	<p>出すまでの責任について、各学部の学科長ごとに面談を行ってきたところ、就職か進学の不明者が多くいたが、ほとんどいなくなった。</p>
回	年月日	意見交換テーマ、意見・指摘等の内容	対 応	検証状況
第1回 経営協 議会	H26.6.23	○意見交換テーマ 『組織再編について』		
		・芸術学部では、有田窯業大学校だけでなく、窯業技術センターも使い、材料の開発を期待している。	<p>窯業技術センターと連携し、セラミック研究所での材料開発も行うことで、デザインだけにとどまらず、新しい素材の開発や今までと全く違うもので表現する芸術などを考えている。</p>	
		・芸術学部の入学試験は面接重視や実技重視など、ある程度凝ったものになるのか、また大学入試センター試験の下限は考えているのか。	<p>芸術学部には高校の理系課程で受験する者もいることから、今までの美術・工芸課程とは違った理系の要素をいれた試験を実施するとともに、発想力の試験（デザインの試験）を行い、トータルな学力試験を行うため、大学入試センター試験の下限については考えていない。</p>	
		・デジタルテクノロジーをどういうカリキュラムで学生に学ばせるのか。	<p>有名なデザイナーにも非常勤講師として入っていただくようにし、将来の就職にもつながるようなことを考えている。</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい学部のネーミングは芸術学部でいいのか。</li> </ul>	芸術学部は現在の仮称であり、今後、いいネーミングがあればと思う。	
--	--	----------------------------------	--

※第2回、第4回、第5回、第6回及び第8回は、メール審議のみ実施、第9回は、意見交換未実施。

(平成25年度)

回	年月日	意見交換テーマ、意見・指摘等の内容	対応	検証状況
第9回 経営協 議会	H26. 3. 26	○意見交換テーマ 『佐賀大学の将来構想と新学部設置について』		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>理工学部の芸術学部（仮称）への連携協力はどのような形ですか。</li> </ul>	材料工学を実施するため、有田焼も様々な素材を探しているため、今後は、ファインセラミックス、特にゴールドセラミックスを担当する教員や都市デザインとかフィールドデザインとかの感覚がある教員が必要になると思われますし、文部科学省も今後は学部の枠を超えた改組が必要だと言っています。	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>有田セラミックスを専攻した学生の就職先は、どのように考えていますか。</li> </ul>	地元での就職は、年に数人だと思いますので、ファインセラミックスの要素もいれていなければ、出口（就職先）がないということです。日本碍子とか考慮しながらやっていく必要があります、本来は作家を目指したいのですが、作家だけではうまくいかない。	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・是非、作家だけでなく、経営という概念をもった人材を育てていただきたい。</li> <li>・まさに、経営マーケティングでしょう美術館マーケティングとでも言えましょうか。世界にうってでてほしい。</li> <li>・紙面等で、この言葉を使う時には、是非、キャプチャーを設けるべきだと思いますので、佐賀大学がその役目を担うようにすべきでしょう。</li> </ul>	<p>マネジメントコースの一端は、モノづくりをさせることを考えています。現に海外からも来日しており、有田焼だけを教えるわけではありません。</p> <p>昨今は、若手がオランダに行ったりしています。</p> <p>学芸専攻は、キュレーターにし、佐賀大学から、キュレーターと言う言葉を広めていきたいと思いますが、受験生・保護者が一番わかる表現にしなければならないため、今後、浸透させなければならないと思っています。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育学部（仮称）同様、芸術学部（仮称）についても佐賀での需要サイドをどう対応するかを考えていく必要がある。</li> </ul>	<p>入口・出口はどうか等、もう一度精査し、文部科学省へ提出しなければなりません。出口は多くありませんが、現在も遠方から修学している学生がいますし、今後は海外からも修学のため入学してもらう必要があります。佐賀大学の目玉となる学部の一つで世界の拠点となる要素があるため、佐賀県との協力が始まったわけです。佐賀の地域、有田のためだけでなく、九州の核になっていく方向性を示したことで、文部科学省も認めてくれました。</p> <p>世界とのネットワークができるだけでも目的は達成されると思います。</p>	

		<p>・有田焼の絵付け職人になっている美術課程卒業者もいるみたいですので、もっと他の世界へも進出して行って欲しいし、感覚的にもっと対応できる人材を育成することが大きな売りになるのではないのでしょうか。また、国際化という意味で、マイセンなど、世界でも有名な焼き物の地域と連携していければと思う。</p>	<p>有田の窯業大学校が大学になりましたら、大学間協定が結べますし、今でも韓国からの学生がいますので、協定を締結し、特化していけるように取り組んでいきたいと思います。今回の計画も文部科学省の承認は簡単ではありませんでしたが、地元のニーズや応援、大学の美術・工芸課程での実績があったからこそ認められました。</p>	
		<p>・文部科学省の感触はどうでしたか。好意的な見方でしたか。</p>	<p>相談した当初は、美術・工芸課程の横すべりという形、また、一学部増えることで大変厳しい状況でしたが、文部科学省からの諸々の課題をクリアできたこと、新課程を廃止してどの様にするのかのモデル校にしたいとする文部科学省の思惑もあったからだと思いますが、今後も指導を仰ぎながら進めていきたいと思っています。</p> <p>デザイン分野は重要だと考えていますし、国際的なデザインコンテストも実施しており、また、人類社会の発展と福祉に資する先端的研究を育むことを目的として設置している肥前陶磁研究所、佐賀錦研究所、地域コンテンツデザイン研究所及びアドバンスト・ポーセリン研究所の4つのプロジェクト研究所が関係し、学部を超えた教員がいることから、芸術学部（仮称）の設置に向けての形が見えてきたところです。</p> <p>次に改編を検討する理工学部、農学部も社会のニーズに適応しているのかという観点と基本となるものは残し、教員の配置も検討しなければなりません。</p>	
<p>第7回 経営協 議会</p>	<p>H26. 1. 27</p>	<p>○意見交換テーマ 『佐賀大学における研究推進について』</p>		

		<p>・女性研究者の支援事業というのは、男女共同参画の視点から取り組むということか。また、女性研究者のロールモデルを考えることも含め、総合的な視野の広がりを含め検討していただきたい。</p>	<p>若手研究者及び外国人研究者と同様に女性研究者を増やしていくことも本学の課題の一つであると考えている。</p>	
		<p>・蓮根の効果を研究した成果について、もっとアピールしていくことが必要だと感じた。</p>	<p>農学の分野については、遺伝子研究を積極的に行っていきたい。また、医療人不足を含め、人材育成を行い、キャリアアップを図ることも検討しており、そのような仕組みを作ることで、本学を目指す学生を増やしていきたい。</p>	
		<p>・日本全体が高齢化社会の中で、在宅医療について経済的に支援を行い、病院完結型から地域完結型へと移行していると感じている。</p>	<p>厚生労働省から、急性期経過後の医療人を育てることを求められており、亜急性から慢性及び介護にかかる医療人の育成を行う必要があり、特に在宅支援については、看護師の力が必要であり、そのために看護師も育てていきたい。</p>	
		<p>・地域というのは、佐賀という単位で捉えてよいのか。</p>	<p>学生の入学及び就職等を視野に入れた福岡の南部及び長崎の一部を考えているが、単位で考えた場合は佐賀県を想定している。ただし、すべてを佐賀県に限定する必要はないと考えている。</p>	
		<p>・佐賀大学の研究について、地域の中で、アイデア（シーズ）を集める仕組みや研究していく体制を整備し、大学の核となる研究を作っていく必要があるのではないか。</p>	<p>大学が持っている資源をいかに活かすかを考えた場合、本学はプロジェクト研究所の体制を作っており、横断的なチームにより研究を行い、アイデアを集め、研究が進んでいくにつれて、支援を行っていくことを考えている。</p>	
第6回 経営協 議会	H25. 11. 14	○意見交換テーマ 『佐賀大学のこれまでとこれから』		

		<p>・正門が整備され、地域の方が入りやすくなった。</p>	<p>様々な意見があったが、皆様気に入っていただき、気が付いたら学内に入っているといったような感覚で親しみやすい正門として整備することができた。</p>	
		<p>・少子高齢化が進み、学生の数が減少していくが、大学もそれに合わせて規模を縮小していくのか。</p>	<p>18歳人口は決まっているので、学生確保の観点から、佐賀大学の特色を作り、質を高め、機能強化を図る必要がある。また、ダウンサイジングも考える必要がある。</p>	
		<p>・大学は経済波及効果が大きく、地元の経済活性化を考えた場合は、高大連携により、学生に地元への愛着を持たせ、一緒に育てていく必要がある。また、今後、大学も統廃合が考慮されていく中で、佐賀大学として、特色・特筆を強調していく必要がある。</p>	<p>地元の人材を地元で育てるが基本である。本学では、「かささぎ奨学金」制度を制定し、優秀だが金銭的支援が必要な学生について、入学試験の優秀者12名に対して、年間30万円の支援を行っている。</p>	<p>平成26年3月6日、佐賀大学アドミッションセンター主催で佐賀県立東高等学校の生徒62名を佐賀大学に招き、「学生が企画する大学生と高校生の交流イベント『ワールド・カフェ』」を開催。（佐賀大学と県内の高校教員で構成する高大連携ワーキング・グループで検討している「大学理解促進プログラム」のメニュー）</p> <p>平成26年3月19日、「佐賀大学の将来構想と新学部設置について」臨時記者会見。文化教育学部の改組と新学部設置構想を発表。</p>
第3回 経営協 議会	H25.6.10	<p>○意見交換テーマ 『大学入試改革に向けた検討』</p>		

	<p>・今後の入試改革を佐賀大学単独で考える場合、英語力の位置付けが非常に重要であり、習得させる英語力が、論文を読み書きできる力なのか、コミュニケーションが取れる力なのかを明確にすべきであり、佐賀大学における英語力は、どのような位置付けか、また、秋田の国際教養大学が成功事例だが、佐賀大学では、この成功例をどのように捉えているのか。</p>	<p>本学では教育の質保証にあたり、これまで学内における客観的評価の指標が乏しいことが課題であったため、全学的に取り組みやすい科目である英語から着手し、動機づけの意味も含め、今年度の入学生からTOEICの全員受験を課したところであり、卒業時に必要な能力として考えている。</p>	<p>平成28年度新設予定の芸術学部の芸術マネジメントコースの前期・後期、平成28年度前期日程の理工学部全学科の個別学力検査に「英語」を追加することを検討。</p>
	<p>・入社試験における学生自身の英語教育が足りなかったという反省意見からも英語に関心があるのは間違いなく、TOEICの導入は良いが、英語のみのディスカッションなど、英語のコミュニケーション能力の向上を図るなどの対策も検討する能力の向上を図るなどの対策も検討する必要があると思う。</p>	<p>TOEICは、一つの指標として得点を見ることができれば良いと考えており、企業側が努力した結果を認めていただけることを期待している。</p>	<p>前学期は平成25年6月29日に実施（1年生全員）、後学期は平成26年1月11日実施（医学部以外の2年生全員、医学部は1年生）。成績優秀者は表彰。（900点以上の高得点者、全学で上位10人）1年次から2年次の伸び率が高い者を表彰することを検討。</p>
	<p>・雇用において、中国人学生は中国語と日本語、さらに英語も話すことができ、非常に優秀である。今後、中国人学生と就職戦線で競う時代を考慮した場合、佐賀大学も九州地域の中で選ばれるよう優秀な学生が集まるような仕組み、体制を構築する必要がある。</p>	<p>本学では、グローバル人材の育成を進めており、留学支援や国際交流実習等の取組を行っているが、会話を中心に教育した場合に、英語での読み書きが十分でない学生が出てくるという懸念があるため、バランスを取りながら進めていきたいと考えている。</p>	<p>平成26年7月8日から25日の約3週間8か国、11大学から22名の学生を迎えて「佐賀大学サマープログラム2013」を実施。佐賀大学生も参加し相互交流を深めた。</p>
	<p>・留年率や退学率等はどのくらいか。</p>	<p>理工学部では4年間で卒業できない学生が25%ほどいるため、継続的に状況の把握、分析等を行ったところ、そのような学生に対してはモチベーション向上に注力すべきであることが判明した。 この他にも本学が抱える課題に対する対応策を判断するため、様々なデータ分析を行っている。</p>	

※第1回、第2回、第4回、第5回及び第8回は、メール審議のみ実施。



(平成24年度)

回	年月日	意見交換テーマ、意見・指摘等の内容	対 応	検証状況
第2回 経営協 議会	H24. 6. 25	○意見交換テーマ 『最近の高等教育行政と佐賀大学の取組み』		
		・佐賀大学の様々な取組みや経営努力は素晴らしいと思うので、日本のアカデミズムは違うのだと、財政規律の面だけで大学を捉えている政治家に反論していただきたい。	本学が取り組んでいる「IR」では、それらが数値として見る事ができるので、良い判断をいただけるものと考えている。 また、大学の様々な取組みが見えないという指摘に対しては、見せる努力が必要だと思う。	「見せる努力」として、平成23年度からホームページで公表している「佐賀大学の取組み」を4半期ごとに更新していくこととし、また「学部・研究科における特色・強みについて」を加えることで充実を図った。
		・少子高齢化である現状を考え、佐賀大学は学部数も減らすとか、強いところは徹底的に強めるなど、思い切った構造改革をすべきではないか。	本学の入学者は減少していないが、国立大学全体としては減少傾向にあるので、今後は定員も減らす方向で計画すべきと思う。 また、学生減や産業界の中での本学卒業生の評価の現状分析を行い、分野ごとに強みを生かす方法を考えるとともに、学生に満足度の高い教育を行うこと、社会のニーズに合った人材を送り出し、佐賀大学へ来て良かったと言える学生を育てることが大事だと思う。そのためにも教員の意識改革が大きな課題だと考えている。	
	・英語による講義を実施するなどして、世界に出ていけるような学生を育て、国際化を目指して欲しい。	改革が早すぎると人はついてこないと思う反面、国立大学の改革は遅すぎるとも思う。そのためにも医師養成だけでなく研究者養成を全大学が同様に実行する時代が来たのではと思う。		
第5回 経営協	H24. 10. 31	○意見交換テーマ 『附属病院の役割と現状について』		

議会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐賀県の医療が大変よくなっている現状に感謝しつつ、地域の老人問題や看護師・職員の不足問題などを踏まえた上での今後の少子高齢化社会に対する大学病院の使命についての考え方を知りたい。</li> </ul>	<p>2025年問題の高齢者医療に対し、慢性期医療機関が不足すると予想されていることから、本学も老人のための医療体制、運動機能の維持、認知症など、地域医療を目指すための役割にシフトしていくべきと考えている。</p> <p>また、老人医療に係る医療費については、医療の連携と役割分担が重要であり、そのため、医療費削減が重要となることから、本県は大都市よりも比較的対応可能だと思う。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本医療界の名医や病院ランキングは興味が高く、佐賀県民に本学附属病院の凄さをもっとアピールすべきだと思うし、今後、地方に財政負担が予想されることから、佐賀県の中核医療としてのあるべき姿、健康医療の伸ばし方、介護医療と最先端医療の両立が必要だと思う。</li> </ul>	<p>本学附属病院の最終的な目標は、県民が「この街に住んでよかった」と思えるようにすることであり、そのためには、健康教室の立ち上げ等を行うなど地域へ循環させていきたい。</p>	
第7回 経営協 議会	H25. 1. 25	○意見交換テーマ 『附属学校園の使命と課題について』		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・附属学校は安心して子供を預けられるという印象だったが、最近は教えることにウェイトがかかっているように感じられるので、より「育てる」ことに目を向けてどうか。これまでの伝統を継承しつつ、新しい伝統をつくることも必要と思われる。</li> </ul>	<p>附属学校へのニーズで考えれば、地域のリーダーとなる人材の育成や、卒業後に全国各地に広がるネットワークの構築等が求められているところであり、今後検討していきたい。</p>	

		<p>・教員養成学部の役割からも先進的教育を実践する場としての機能とエリート養成校、地域のリーダー養成校としての機能の両方を求めていく必要があるのではないか。</p>	<p>教育研究評議会における意見交換会でも同様の意見があり、片方に絞るということは難しいと考えている。</p>	
		<p>・特別支援学校については、数も少なく、その特性から対応できる機関は限られているので、こうした分野にこそ、国立大学が社会において果たす役割が見いだされるのではないか。</p>	<p>大学間連携事業において、福祉系も含めて県内の5つの大学、短期大学が連携して教育プログラムを組んでいるが、文化教育学部が大きな役割を担っており、本学の特色でもあるため、今後強化していきたいと考えている。</p>	
		<p>・附属学校の教員人事は、県の教育委員会が扱っている関係上、大学教員が校長を兼ねているが、専任で附属学校を運営し、責任を持って教員人事にも取り組む体制にする必要があるのではないか。</p>	<p>附属学校の校長の任期を2年から3年とし、責任体制は強化したが、実際に附属学校を運営しているのは県教育委員会が人事を扱う副校長であることから、この点について今後検討が必要であると考えている。</p>	
第9回 経営協 議会	H25. 3. 28	<p>○意見交換テーマ 『大学改革実行プランへの取組みの中のCOC機能』</p>		
		<p>・佐賀大学の文化教育学部国際文化課程において、講義すべてを中国語や韓国語で行い、かつ留学を必須条件とし、卒業後は、佐賀県など自治体や業界で働ける人材を育成する佐賀県版の国際大学なるものを期待したい。</p>	<p>文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」には、相当の補助金が計上されるが、そのキーワードは全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献であり、自治体との連携が不可欠である。 今回の提案も、本学内で取り組んでいるプロジェクト研究所の活動を発展させ、検討できる取組だと思われる。 西九州大学と連携した教育に視点を置いた「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」として佐賀における地（知）の拠点整備事業を開始した。</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市再生において、佐賀市内の空きビルの有効活用の対策に佐賀県も真剣に取り組んでいるが、知恵不足の感じが歪めないため、大学の先生方の知恵を拝借し、大学と自治体との連携した取組が実現できれば、全国の良い例になると思われる。</li> </ul>	都市再生については、既存の空いている施設を機能集約し、大学が規制緩和等のアイデアを出し、利用方法を研究するイメージだと思われるため、本学の都市工学科や経済学部などで協力できるとテーマだと思います。	
--	---	--	--

※第1回、第3回、第4回、第6回及び第8回は、メール審議のみ実施。

回	年月日	意見交換テーマ、意見・指摘等の内容	対 応	検証状況
第3回 顧問懇 談会	H24. 12. 14	<ul style="list-style-type: none"> <li>I Rについては、佐賀大学の「見える進歩」として社会に対し、存在を示せたことで実に良いことだと思うが、日経新聞等の大学評価ランキングにおいて、佐賀大学が上位にランクされていないので、I R成果は反映されているのか疑問がある。</li> </ul>	大学評価ランキングについては、様々なデータを基にランキング付けされているため、評価されるべきI Rなどについては、データでは評価されにくい面があり、今後はI R室で評価ランキングのデータ分析を実施するなど、最大限の努力をしたいと思う。	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>退学者数が若干増加している要因について伺いたい。</li> </ul>	本学で調査した結果、佐賀・福岡県以外の理工学部入学者で下宿している男子学生に多く、かつ、その入学者の成績や入学者選抜方法における競争倍率等が影響している模様。また、教育現場から見た場合、男子学生はアルバイトの過多、女子学生は人間関係が影響しているようなので、退学者数を減らすには、教員が学生と対峙して取り組んでいく努力が必要。 また、退学者の多くは目標を持っていないことが多く、入学者の学力の問題、教育の質の問題等が主な要因になっており、メンタル面の問題については、ソーシャルワーカーでの対応を実施するなど学生のフォローをして、退学者等を増やさない努力をしている。	

		<p>・佐賀大学入学者の中で、目的や目標を持っていない学生に対しては、入学後に指導できる教育体制も必要であるかと思う。</p>	<p>指導の一環として、ポートフォリオの導入を実施したところであり、本学学生の英語能力の低下対策として、平成25年度から大学の方針として、年2回の英語能力試験を受験させることとした。 また、高大連携として、高校入学後からを対象としたプログラムを作成し、大学・高校間で相互に連携しながら、大学に入学する目的や意味を培ってもらう事業を実施している。</p>	
		<p>・教員試験について、佐賀県内の合格率は良くなっているようだが、受験教育等の指導をされているのか。 また、佐賀大学において、大学院生による発達障害生教育の質保証ができれば、佐賀県の教員採用において、“佐賀大学枠”を要請することも可能だと思うし、そのためにも佐賀大学の教員養成課程に発達障害生教育の目的意識を持った学生が入学できるように“推薦枠”を設定できないか。</p>	<p>合格率については、また悪くなっている。ただ、合格率については、単年度の判断になるため、詳細が判断しにくい状況。 また、発達障害生教育については、平成24年度に「大学間連携共同教育推進事業」として、発達障害等をテーマとする大学間共通教育プログラムを共同開発し、大学コンソーシアム佐賀の連携校が有する療育指導資源を生かして、大学間発達障害支援ネットワークを構築し、地域の療育ニーズに対応できるように検討しており、“推薦枠”についても今後の検討課題としたい。</p>	

(平成23年度)

回	年月日	意見交換テーマ、意見・指摘等の内容	対応	検証状況
第1回 経営協 議会	H23.6.24	○意見交換テーマ 『大学における人間教育のあり方について』		

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育者とは一体どうあるべきか」、教育の原点が「何か」を教員全員が再度確認し、学生側から見た場合、理想の先生となれるような教育者に自分自身でも意識改革を行うなど、供給サイドでも再考する必要がある。</li> <li>・教養課程の中で、佐賀大学の卒業生、企業、思想家の方々を上手く活用され、講演だけでなく、お互いの意見交換の機会を設けたらどうか。</li> <li>・豊かになりすぎたことで、自分の使命感や志の気持ちが薄らいでいることから、その使命感や志に気づかせてあげる必要がある。</li> </ul>	<p>大学の組織の中では、教職員の教育も大事だと思うし、本日の意見交換の結論としては、全人的な教育が必要であることだと思う。また、学生が学んで良かったと思える大学、言い換えれば面倒見のいい大学を目指していきたい。</p>	<p>全学教育機構の平成25年4月の開講に向け、現在、新たな教養教育の実施のためのカリキュラムや体制等を検討しているところである。</p>
第2回 経営協 議会	H23. 10. 31	○意見交換テーマ 『佐賀大学美術館・正門整備について』		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画している佐賀大学の美術館が佐賀県立美術館と同じコンセプトでは意味がない。すみわけをする必要がある。</li> </ul>	<p>美術館・正門整備委員会及び建設WGに県立美術館館長が参加しているため、すみわけについて検討し、大学独自のコンセプトを考えていきたい。</p>	<p>美術館利用WGのもと、大学らしい美術館にするための検討を行っている。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術館建物は目につくような斬新的なものが良いと思う。工学系研究科の教員にアイデアを求めてはどうか。</li> </ul>	<p>アイデアを学内を含め募集したい。</p>	<p>本学の学生、卒業生、教職員（退職者を含む）に対し、「佐賀大学らしさ」をテーマとした正門エリアにおける各種アイデアをH24. 2. 10までの間公募した結果、11件の応募があり、建設の参考にすることとした。</p>

		<p>・市民が気楽に来れるように美術館建物の入口を癒やしの雰囲気のあるものにしてほしい。また、大学の立派さ（威厳）は、正門からの透視画法的な奥行きが大事であり、正門の両脇にややシンメトリー的な彫刻を設置すれば感じの良い空間ができるので、大きさを統一した彫塑をうまく活用できたら良いと思う。</p>	<p>県立美術館とのすみわけ、佐賀大学美術館の特徴等を考えた場合、佐賀大学出身者の作品だけで『人を呼べるのか』の不安があるため、癒しの場所、また文化教育学部や工学系研究科で体験可能な近未来技術を現代アート風に常設してARだけでなく、バーチャルリアリティ等の知恵を生かした総合大学の美術館を目指していけたら、東京芸術大学や佐賀県立美術館と違う美術館になると思うので、検討していきたい。</p>	<p>美術館・正門整備委員会と3つのWGとの合同会議を開催したり、基本設計業者と担当者による綿密な打ち合わせを何回も行っているところで、美術館と正門、周りの大学環境がマッチするよう検討を重ねているところである。</p>
第4回 経営協 議会	H24. 1. 27	<p>○意見交換テーマ 『佐賀大学IR（インスティテューショナル・リサーチ）について』</p>		
		<p>・佐賀大学版IRのポイントは、学長直轄で実施することに意義があることだと思います。</p>	<p>本学では、病院管理会計システムの成功事例もあり、今後は、可視化できていなかったデータを上手く活用することで、大学全体の経営戦略等に反映できるように努めていきたい。</p>	<p>情報分析・提供によるコンサルテーションやこれらを通じた現場のモチベーションアップを目指し、本学運営のために計画策定、政策決定、意志決定を支援することを目的とする、学長直下の「IR室」を平成24年7月1日に設置し、専任職員を配置した。</p>
		<p>・IRの方針に沿ってデータが作成されると思いますが、完成期限とかはどうなるのか。</p>	<p>構築はその都度であり、活用も永遠に可能ですが、スピード感は常に求められますので、その点を念頭に検討していきたい。</p>	
第5回 経営協 議会	H24. 3. 19	<p>○意見交換テーマ 『産学・地域連携による社会貢献戦略について』</p>		

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会貢献も大事であるが、その対象となる佐賀県の人口減少が問題であり、人口流出、若者の県外流出を抑制する方法を考慮する必要が重要になると思われる。</li> <li>・現在でも大学として様々な取組みをされていること自体素晴らしいことであると思います。</li> </ul>	<p>今回の、「産学・地域連携による社会貢献戦略」についての意見交換の結論として、現在佐賀大学で実施している取組みを継続し、さらにWebを利用した新しい取組み等も検討していきたい。また、受験生が他県に流出しないように入口から出口までの面倒見のよい魅力ある大学を目指していきたい。</p>	<p>佐賀県や佐賀市等の自治体、佐賀県内を始めとする企業や各種団体等との連携・支援体制を一層強固にして、本学及び本学を取り巻く地域が一体となった産学・地域連携を戦略的かつ総合的に推進するため、産学官連携推進機構と地域貢献推進室を統合した「産学・地域連携機構」を平成24年4月1日に設置した。また、6者協定事業の中で、産学官が広く連携する事業で、特に先導的な役割を担うリーディング事業を展開することとした。</p>
--	--	---	---	--

※第3回は、メール審議のみ実施。

回	年月日	意見交換テーマ、意見・指摘等の内容	対 応	検証状況
第2回 顧問懇 談会	H23. 12. 30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理工学部学生が韓国の大学を訪問した際、その大学の学生の優秀さを感じさせらものが多くあったとのことであるが、訪韓で感じてきたこと等を佐賀大学として様々な評価に反映させていくべきだと思う。</li> </ul>	<p>訪韓した学生の中に「かささぎ奨学金」(佐賀大学独自の返還を要しない奨学金)の対象となった学生がいたため、同奨学金授与式後、当人に訪韓について報告をしてもらった。その結果他の学部の優秀な学生達から多様な意見があったことから、今回の訪韓は、他の学部生の良い刺激になったと感じているため、今後も大学として支援していきたいと考えている。本取組が多方面への波及効果に繋がっていくことを期待している。</p>	



	<p>・「日本のビジネスマンには教養が足りない」（作家：丸谷才一）という言葉から、全学教育機構のカリキュラム等の参考になったら良いと思う。是非、本内容を教養教育の一部として学生に紹介・指導してもらいたい。また、佐賀の七賢人をすべて理解している佐賀県人が少ないのが現状であるため、小学校低学年の教育の中で、このような教養力も身に付けさせる必要があると思う。</p>	<p>「教養」については、教養がないことを理解させる教員の教養力も必要であると痛感している。また、佐賀のことを尋ねられても意外と佐賀の事は知らない場合がある。今後は、他大学で取り入れられている取り組みや自校教育の実施について検討していきたい。</p>	
--	---	---	--

回	年月日	意見交換テーマ、意見・指摘等の内容	対 応	検証状況
第1回 本庄自治会との協議懇談会	H23. 12. 15	<p>本庄校区は、平成23年4月1日「佐賀市地域コミュニティ活性化モデル校区」に指定されたことに伴い、同じ「本庄」に立地し生活的親しい関係が存在する佐賀大学に、地域づくりの種々の面で支援を得たいとの協議の申し入れがあり、以下について協議した。</p> <p>(1) 佐賀大学に期待する社会的貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 公民館各種講座への講師派遣</li> <li>② 本庄地域研究への参画</li> <li>③ 「本庄祭」等への参加応援</li> </ul> <p>(2) 防災・防犯についての協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 自然災害時の本庄住民避難支援等についての協力依頼</li> <li>② 児童・生徒の通学路の安全確保への協力依頼</li> </ul> <p>(3) 高齢者福祉研究への知的支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 心身状態の実態調査</li> <li>② 相談事業への協力</li> </ul>	<p>協議事項について説明を受け、佐賀大学の現状について意見交換を行った。</p> <p>今後は、地域貢献推進室を窓口として、協議事項について検討を進めていくこととし、毎年末に協議懇談会を開催することを決定した。</p>	

(平成22年度)

回	年月日	意見交換テーマ、意見・指摘等の内容	対 応	検証状況
第1回 経営協 議会	H22. 6. 4	○意見交換テーマ 『財務レポート』		
		・地元の鉄工会社で佐賀土壌水質汚染問題研究会を立ち上げ、佐賀大学の先生にも講師として参加してもらい、環境問題に取り組んでいる。今後も佐賀大学の協力をお願いしたい。	現在、理工学部、農学部を中心に取り組んでいるが、更に全学的視点から今後とも引き続き参加し、協力していきたい。	
第2回 経営協 議会	H22. 10. 20	○意見交換テーマ 『佐賀大学における今後のキャンパス整備の方向性について』		
		・国際リニアコライダー（ILC）構想について、国内の学者グループは、東北地区（東北大学）か九州地区（九州大学・佐賀大学連合）の2か所に絞っている様子であり、世界に佐賀大学の物理学の存在を高めたい。是非、佐賀大学に音頭をとってもらいたい。良い例として、シンクロトロン光について、佐賀大学と県とが一体となった結果、出来上がった加速器の技術なり実績もあるので、ILCにも生かせないかと思っている。	国際リニアコライダー（International Linear Collider 略称ILC：超高エネルギーの電子・陽電子の衝突実験を行うため、現在、国際協力によって設計開発が推進されている将来加速器計画）については、本学も力を入れており、現在、地質調査等、九州大学と歩調を併せて進めている。最終的には、福岡大学も含めた広範囲での構想を検討することとしている。	

		<p>・佐賀大学には、有名な先生の作品も数多くあると思うので、建物内に掲示している絵画等は定期的に交換し、彫塑は野外に置いてライトアップを図って欲しい。また、菊楠シュライバー館については、大学の象徴的建物であり、佐賀市の「都市景観賞」に是非応募して欲しい。</p>	<p>本学には、伝統のある九州唯一の教育学部特別教科（美術・工芸）教員養成課程を前身にもつ文化教育学部美術・工芸課程があり、卒業生に数多くの芸術家・教員等を輩出している。そのために建物内にOBなどからの寄贈絵画等を掲示しているが、今後は定期的に入れ替えを検討するとともに、彫塑などの工芸品についても大学行事の機会をとらえて野外展示するなど外部にアピールしていきたい。</p> <p>また、菊楠シュライバー館については、旧制佐高時代からの象徴的な建物であるため、是非応募に向けて検討したい。</p>	<p>平成25年10月に旧佐賀大学と佐賀医科大学との統合10周年を迎える記念事業として、本学に美術館を設置し、卒業生の代表的な絵画等を展示・公開するとともに、現役学生及び教員の作品展や制作の場の公開等を行うこととしている。</p>
		<p>・佐賀大学行きのバス（構内停留所含む）を検討するなど、アクセス対策を検討願いたい。また、学外者、特に初めての来学者は正門を目指して来学するため、大学本部から考えると「はずれ」にある感じがするため、正門の位置は、特に議論検討願いたい。</p>	<p>佐賀大学への直行バスの増便等について、早急に佐賀市と交渉を行ってほしい。</p> <p>また、正門の位置については、東側の中央当たり（整備された道路）等も検討したが、信号の設置及び大学建物等の位置関係で、現段階では、北東の角、又は現在の正門周辺の一体構想としている。バス等で来学した場合、一番判りやすい場所であり、また、伝統的には北東の角は、旧制佐高時代の正門の位置でもある。</p>	<p>その後、直ちに佐賀市と交渉を行い、平成23年4月8日から直行便2便の増便を図った。また、統合10周年記念事業として本学に美術館を設置することにあわせて佐賀大学のシンボルとなる正門を整備した。</p>
<p>第3回 経営協 議会</p>	<p>H23. 1. 17</p>	<p>○意見交換テーマ 『附属病院の再整備について』</p>		
		<p>・医学部附属病院の地域医療支援センターについては、県立病院と本学附属病院との区分け等、相当なリーダーシップの発揮を望みたい。</p>	<p>骨折等の外傷救急については県立病院で、複雑な外傷、臓器外傷又は重篤な救急疾患については本学附属病院で受け入れるなど、ある程度の区分け受入れ体制は実施しているが、今後さらに明確化していきたい。</p>	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療分野においては、医学部だけでなく工学系との連携による開発等も期待したい。</li> </ul>	<p>本学附属病院整形外科による股関節形成術は本学工学系研究科との連携されたものとして実現されているが、再生医療について、工学系研究科との連携等のプロジェクトも少しずつであるが検討されている。今後さらに可能性について探っていきたい。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒後臨床研修制度による研修医が佐賀大学に集まるような特徴を考慮して欲しい。</li> </ul>	<p>平成16年4月から医師免許を取得した者のうち、診療に従事しようとする医師は医療機関で臨床研修を受けることが義務化されたことについて、本学の外科系は卒業生に人気があるが、内科系は他の機関に行く者が多い状況である。今後の課題として検討していきたい。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業料免除について、毎年固定的な条件ではなく、成績優秀者も対象にするなど、弾力的な運用も検討してほしい。</li> </ul>	<p>実施に向けて検討を行っていきたい。</p>	<p>平成23年6月24日付けで、本学に強く入学を希望する成績優秀な者について、入学前の申請により入学後の奨学金給付を予約する大学独自の「予約型奨学金」を創設した。なお、平成23年度については、現に在学する者に奨学金を給付する特例を設けるものとし、学年進行で継続して給付することとした。</p>
第4回 経営協 議会	H23. 3. 22	<p>○意見交換テーマ 『多額の経費を伴う主要事業について』</p>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐賀大学の学生は海外への留学が少ないと聞いているが、増やす対策を講じているのか。</li> </ul>	<p>ご指摘のとおり、海外留学する者が少ないことが大きな問題となっており、卒業旅行で初めて海外へ行き、その時に後悔している学生が少なくないと聞いている。今後、本学の留学生との交流の場を設けるなどして、留学の拡大に向けて検討していきたい。</p>	<p>平成23年12月9日開催の校友会役員会において学生支援事業の一環として海外派遣奨学金制度を創設し、申請受付を開始した。また、カナダ、アメリカ等英語圏の受入れ国への短期留学等を計画中である。</p>

回	年月日	意見交換テーマ、意見・指摘等の内容	対 応	検証状況
第1回 顧問懇 談会	H22. 10. 27	<p>・ 6者協定は適切に機能しているのか。会議等は開催されているようだが、成果はあがっているのか、また、経済界としても在るべき姿でお手伝いができているのか疑問がある。昨今の動き等をお教え願いたい。</p>	<p>主体は「何処か」が問題であり、実際は、大学で計画し、大学側で動かしていることが多くなっているところである。経済団体・産業界の中には「自分達の事」として捉える点で若干意識が少ないところが見受けられる。文化・福祉等については、大学側が率先すべきであるが、経済団体・産業界の皆様にはどのような方法があるのか判りにくい面もあると思われるため、現在、学長自ら企業廻りを実施しており、少しずつであるがそのような気運が生じつつあり、理解も得られようとしている。</p> <p>6者協定以外にも地域の産学官連携推進協議会があり、そこでは、大学のシーズでなくニーズから始めるということで、ニーズマップの作成を検討している。また、企業廻りで社長の方々から大学に対し人材育成の話が多くあり、学生の教育関係でいえば、専門知識が大事とかグローバル化では語学教育の重要性を指摘されるなど、多様な意見が寄せられている。</p> <p>今後、寄せられた意見についてその対応を検討していきたい。</p> <p>(平成22年5月6日から12月24日まで延べ22日間、企業訪問実施、企業58、商工団体5、業界団体1、計64社・団体)</p>	<p>6者協定事業の中で、産学官が広く連携する事業で、特に先導的な役割を担うリーディング事業を展開することとした。</p>

		<p>・運営費交付金の減少はいつまで継続するのか。また、大学運営に関しての外部資金導入の活動方法、進捗状況等についてお教え願いたい。</p>	<p>運営費交付金の削減は、政権交代後も継続されることになったが、病院の有無によって削減率が違っており、本学では昨年で1.4%減、今年は1%（実質は0.7%程度）の予定となっている。</p> <p>外部資金を導入するために、競争的資金対策室で外部資金獲得のノウハウや獲得実績のある教員からのアドバイス等を受けながら、獲得額を増やしている状況で、組織として対応している。科学研究費補助金については、教員全員が応募するよう働きかけを行っており、応募しなかった教員については、理由を提出させている。また、企業廻りとか6者協定により大学と企業又は自治体が提携した研究のなかで、資金を獲得していくことも必要だと思っている。</p>	
--	--	--	--	--